真野小だより

児童数：４６９名
Ｎｏ．１７
令和３年１２月１５日発行

学校教育目標『あかるく　やさしく　たくましく』

よいお年をお迎えください

令和３年も残すところ２週間余りとなりました。そして、間もなく二十四節気の冬至です。冬至は、太陽が１年で一番南にある状態です。ですから北半球では１年中で昼がいちばん短く、夜がいちばん長くなります。

コロナの感染拡大で始まった令和３年、第５波の到来とともに始まった２学期も間もなく終了します。ようやく感染状況が落ち着いてきたと思えば、１１月末から、オミクロン株の感染が広がりつつあります。これが必ず来ると言われていた第６波の到来でしょうか。ただでさえ気忙しいこの時期に心配事が増えました。

さて、間もなく子どもたちが楽しみにしている冬休みがやって来ます。１４日間という短い休みですが、事故や怪我のない、安全で楽しい毎日を過ごして欲しいと思います。各担任から事前の指導を行いますが、規則正しい生活や家族の一員としての役割の遂行、古くから続くよい習慣や態度を育む機会としていただければ幸いです。特に年末年始は改まった挨拶等を体験し、礼儀作法を身に付ける絶好の機会です。

また、決して気を緩めることなく、感染対策についても万全を期していただきますよう、よろしくお願いいたします。

保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に対して、いつも温かなご支援・ご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。迎える新年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

マスコットキャラクター決定～夢づくりプロジェクト～

１学期より展開していた夢づくりプロジェクトのマスコットキャラクターづくり。児童はもちろん、広く地域住民の皆様にもアイデアを募りました。地域の方から１２の応募、児童の応募１０６から、この度マスコットキャラクターが決定しました。「まのぽん」です。真野の地域をつなぐキャラクターをどうぞよろしくお願いします。

個別懇談会、よろしくおねがいします

個別懇談会では、お子様の頑張りや成長したところ等について、お伝えします。お忙しいと思いますが、時間を取ってくださいますようよろしくお願いします。

また、「転出入の調査について（お願い）」を児童をとおして配布しております。来年度の学級編制にあたって、現時点で３学級編制になるのか、それとも２学級編制になるのか判断がつきかねる学年があります。学校としましては、人的配置、教室配置の面からもできる限り早急に、且つ、確実に把握したいと考えています。各ご家庭の転出等の情報はもちろんですが、もし近しい方で来年度本校に転入予定の情報等がありましたら、併せてお知らせいただければ幸いです。懇談会にお越しいただく際には、上記の**転出入調査とともに、必ず体調管理票**をご持参いただき、担任に提出いただきますようお願いいたします。

学習参観の実施予定について

２月１６日（水）に保護者に来校していただく学習参観を計画しています。「真野小だよりＮｏ．１（４月８日発行）」でお知らせした本年度のな行事では、２月１５日（火）としていましたが、他の行事との関係で、２月１６日（水）に変更して実施する予定です。

何とか今年度中に、一度は来校を伴う教室での学習参観を実現したいと考えています。実施方法についての詳細は後日改めてお知らせしますが、地区別を２グループに分けて参観いただく予定です。但し、新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、やむを得ず中止、またはＺｏｏｍによる参観に変更する場合があることをあらかじめご了承ください。

言葉は「言霊」、美しく1年を締めくくる

日本人は、物事の締めくくりという意味で、「けじめ」や「後始末」を大事にしてきました。「後始末」には、「物事の区切りをつける」「人や物への感謝を深める」「次に向けた心の準備をする」等、単なる礼儀作法を超えたものがあります。１年の終わりに、自分の「言葉」をフィルターにして、改めて日々の生活を振り返ってみたいと思います。

『子どもに伝える日本国憲法』(井上ひさし著)に、戦争放棄について記されている文があります。

どんなもめごとも ／ 筋道をたどってよく考えて
ことばの力をつくせば ／ かならずしずまると信じる
考えぬかれたことばこそ ／ 私たちのほんとうの力なのだ

私たち人間はたくさんの言葉をもっています。しかし、友達や親子、大人同士の関係の中で、通じ合う言葉を見つけられずに、暴言を吐いたりよくない言葉を使ったりすることはなかったか。

職員室で、「人が傷つくような言葉を平気でつかう児童」について話題になることがあります。言うまでもなく、言葉は大切です。私自身、言葉のつかい方やつかう順番によって、同じことを言っても印象がまるで違うことを何度も経験しました。失敗もたくさんしました。言わなければよかったと後悔したことも数知れません。逆に、つかわれている言葉からその人の品格を感じさせる場面にもたくさん出会いました。

「言霊（ことだま）」という言葉があります。言葉に宿る霊の意味です。昔日本人は、言葉には霊が宿っており、その霊力が働いて言葉として発していると考えていました。よい言葉を発するとよい事が起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるとされてきました。だから、美しい言葉を探してつかうことが、日本人の生活に根づいていったのだと思います。

子どもたちには、「よい言葉」「温かみのある言葉」を自然につかえる人になってほしいと願います。物や人を攻撃する言葉や冷たい言葉は、何も生み出さないこと。それによって、自分の身の回りを破壊するし、凍らせていくことになることも伝えなければいけません。

３学期は「あいさつ・そうじ・言葉づかい」の言葉づかいに力を入れていきたいと思います。

＜ひとつのことば　　北原白秋＞

ひとつのことばでけんかして／ひとつのことばでなかなおり
ひとつのことばで頭が下がり／ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い／ひとつのことばで泣かされる
ひとつのことばはそれぞれに／ひとつの心を持っている
きれいなことばはきれいな心／やさしいことばはやさしい心
ひとつのことばを大切に／ひとつのことばを美しく